放送とおいしいそうな匂いに誘われて、
大勢の人が「炊き出し」に集まってきた。

避難所で暮らす人に温かい食べ物を届けたい！

いわて生協・被災者支援①（炊き出し）

甚大な津波被害を受けた岩手県沿岸部。
いわて生協が、避難所で暮らす被災者に
温かい食べ物を届けようと始めたのが「炊き出し」だ。
地域の組合員理事や被災地エリアの
支部担当者の参加を得て、
3月20日、大船渡市で最初の炊き出しが行なわれた。

沿岸部の被災者支援として避難所での「炊き出し」を計画

「津波で甚大な被害を負った沿岸部の人たちに、何かできないだろうか」――組合員や職員から自然に出てきた声に応えて、いわて生協が被災者の支援策として打ち出したのが、「おにぎり隊」（P.18）や「移動販売」（P.23）、そして避難所で暮らす人に向けての「炊き出し」だ。これらの活動を取りまとめた、いわて生協常勤理事の金子成子（かねこせいこ）さんは、「内陸部でも被害はありましたが、本当に大変なのは沿岸部。何よりまず、食べ物に困っています。とにかくできることからと始めました」と話す。

3月20日、最初の炊き出しが大船渡市の大船渡地区公民館で行なわれた。この日、いわて生協本部（滝沢村）から出発したのは総勢7人。その中には大船渡市などを活動エリアとする、共同購入けせん支部（大船渡市）支部長の向口一馬（むかいぐちかずま）さんとチーフの大舘浩（おおだてひろし）さんの

大釜2つでお湯を沸かし、500食分の豚汁の準備に入る、（左端写真の右から）常勤理事の金子成子さんと常務理事の角田信子さん。
右端写真は味付けを行なう、けせんコープ（地区）理事の飯塚郁子（中央）さんと、共同購入けせん支部長の向口一馬さん（右端）。

姿があった。けせん支部は津波で大きな被害を受けたため、2人はこのとき本部に在席しており、大釜2つとプロパンガスボンベ、食材などを積み込んだ共同購入の配送車で大船渡に向けて出発。一方、いわて生協常務理事の角田信子さんと常勤理事の金子さん、支援に駆け付けた日本生協連の職員らは乗用車で現地に向かった。

大船渡市はリアス式海岸特有のV字型の湾沿いに発展した街。2時間かかって到着した沿岸部の幹線道路は、がれきはすでに取り除かれ、自動車による往来に支障はなかったが、そこに広がっていたのは破壊された街だった。

炊き出し会場となった大船渡地区公民館は高台にあるため被害をまぬがれたが、家の残骸やがれきが残る場所とは直線距離でわずか200メートル足らず。周辺のアパートや住宅は無事に見えるが、電気、水道は止まったままで、人びとは不自由な生活を強いられていた。

避難所や地域のかたがたに熱々の「豚汁」を提供

午前11時過ぎ、会場に到着した一行は、さっそく公民館の入口横で準備を始めた。けせんコープ（地区）理事を務める飯塚郁子さん夫婦も加わり、大釜2つで豚汁を作り始めた。食材は前日、組合員ボランティアが用意したものだ。大釜のため、お湯を沸かすのに時間を要したが、後は順調に進み、午後1時前には被災者の皆さんに熱々の豚汁を提供する準備ができた。

公民館で案内放送があると、一人、二人と中から姿を現し、徐々に列ができていく。スチロール製のおわんで湯気の立つ豚汁を手渡すと、子どもたちはうれしそうに受け取り、お年寄りは「ありがとうございます」と深々と頭を下げた。

避難所にいる人ばかりでなく、公民館周辺のアパートや住宅に住む人の利用もあった。約1時間で300食を提供したところで利用者の姿はなくなり、引き上げることに。この日は500食分を用意したため、余った豚汁は公民館で食事を作るボランティアたちに渡して夕飯に利用してもらうことにした。

被災者に豚汁を配る、けせん支部の大舘浩さん。

炊き出し会場で、けせんコープ（地区）理事の飯塚郁子さんは叔母と10日ぶりに再会できた。

4月2日からは「1万食の牛丼炊き出し」も

帰りの車の中で金子さんは、「芋を煮るのに時間がかかってしまいました。また、大根も堅かったようです。もう少し事前の下準備をしておく必要があるようです」と、さっそく翌日の炊き出しのため、本部の職員に食材の下ゆでを指示していた。この日以降も、いわて生協では、他の生協の支援も得ながら沿岸部での「炊き出し」を計画していたが、本部での準備が万全ならば現地での手間もかからず、誰でもおいしく調理することができるはずだ。角田さんは、「皆さんに喜んでもらって、炊き出しをして本当によかった」と感想を述べつつ、同時に自らの体験として、「東京にいる息子が、こちらの心配をしてくれています。震災が家族の絆を確かめるきっかけになりました」と話してくれた。

4月2日に宮古市の避難所で行なわれた「1万食の牛丼の炊き出し」の様子。（写真　桐生広人）

「炊き出し」は、大阪いずみ市民生協などの協力を得て、21日には釜石市の避難所（1カ所）、23日には山田町（同3カ所）、28日には釜石市（同2カ所）、29日には釜石市（同3カ所）、31日・4月1日には山田町（各1カ所）など、計35回実施されている。本部での下ごしらえや準備には、いわて生協の組合員がボランティアとして参加した。さらに、4月2日からは、全国肉牛事業協同組合の提供による牛肉720kgや玉ねぎ、長ねぎ、こんにゃくなどを用いて、沿岸の避難所計40カ所で「1万食の牛丼の炊き出し」も実施している。

（文・写真　山本明文）